

基礎研 レポート

4人に1人が NISA を利用するシニア未婚女性

～投資への意識・行動が最も積極的な消費主体に注目

生活研究部 准主任研究員 坊 美生子
(03)3512-1821 mioko_bo@nli-research.co.jp

1—はじめに

筆者の既出レポートで、65歳以上の高齢者のうち、未婚女性は、老後の生活資金のために、約26%がNISA（小型投資非課税制度）を利用していることを報告した⁽¹⁾。長寿を見据えて、4人に1人が投資を行っていることになり、投資への関心が高く、行動が積極的な主体と言える。これまでも、個人投資家の年齢や世帯収入等に着眼した分析はあったが、配偶関係に着目したものは殆ど見当たらない。筆者はシングルシニアのライフスタイルに関心を持っていることから、高齢者の性別と配偶関係に着目して資産形成の状況を分析したところ、思いがけず、投資に積極的な「シニアの未婚女性」という消費主体を発見した。本稿では、このような積極性と関連がありそうなシニア未婚女性の特徴について考察する。

2—投資に積極的なシニアの未婚女性

2-1 | 着実な生活資金の備え

まず、改めて性・配偶関係別に資産形成の差について分析した結果を紹介する。公益財団法人生命保険文化センター（以下、文化センター）が2020年に行った「ライフマネジメントに関する高齢者の意識調査」の高齢者調査のデータを基に、筆者が分析した結果が図表1である。「あなたは退職後の生活資金形成のための経済的な準備をしていますか」との設問に対し、未婚女性の25.8%が「NISA（小型投資非課税制度）」を利用していると回答した。男性全体の平均が10.3%、女性全体の平均が9.0%であることを考えても、高い回答率となっている。

未婚女性の他の欄を見ると、そもそも退職後の生活資金を「準備していない」との回答が9.7%と、すべての性・配偶関係の中で最も低い。逆に、何らかの準備をしている未婚女性は約9割に上ること

(1) 坊美生子（2023）「[人生100年時代のシングル高齢者の不安と備え～未婚女性はポジティブで備えも進み、未婚男性はネガティブで備え不足](#)」（基礎研レポート）

になる。具体的な対策をみると、「預貯金」を準備している人は83.9%に上り、こちらも、すべての性・配偶関係の中で最も高い。つまり、未婚女性は長寿を見越して、着々と資産形成を進めており、その一つとしてNISAを利用する人が4人に1人の割合に上っている、ということになる。

本調査では、NISAを用いて保有している金融商品の種類や時価総額等については聞いていないため、投資規模や目的等は把握できない。また、未婚女性では生活資金への備えとして「NISA、iDeCo以外の株式・債権等の有価証券」と回答した人は3.2%と僅かであるため、投資経験自体は浅く、投資規模も小さい可能性がある。むしろ、非課税メリットを得るために、NISAに限定して投資を行っている可能性がある。いずれにせよ、投資にチャレンジする人が多いのは事実と言える。

また、同じ文化センターの調査で、「将来、判断能力が不十分になったときに株や証券などの金融資産を家族や成年後見人にどのように扱って欲しいですか」という設問に対しても、未婚女性は「適切に運用する」との回答割合が、すべての性・配偶関係の中で最も大きい4割弱となった(図表2)⁽²⁾。逆に、「そのまま保持する」との回答は1割未満だった。資産の「保有」よりも、「運用」への意識・関心が最も高い層であると言える。

図表1 性・配偶関係別にみた老後の生活資金の備えとして行っていること(高齢者)

<男性>

	預貯金	生命保険 (個人年金・終身 保険)	NISA (小型投 資非課税 制度)	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	NISA、 iDeCo以 外の株式・ 債権等の 有価証券	不動産の 売買や賃 貸	その他	準備して いない	無回答
未婚	47.1%-	23.5%-	8.8%	0.0%	11.8%	14.7%+	0.0%	35.3%+	0.0%
配偶者あり	66.4%	49.5%	11.3%	2.8%	10.1%	8.8%	1.3%	17.1%	2.8%
離別・死別	62.7%	42.9%	5.6%	2.4%	8.7%	11.1%	1.6%	25.4%+	0.8%
全体	64.9%	47.4%	10.3%	2.6%	9.9%	9.4%	1.3%	19.2%	2.4%

<女性>

	預貯金	生命保険 (個人年金・終身 保険)	NISA (小型投 資非課税 制度)	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	NISA、 iDeCo以 外の株式・ 債権等の 有価証券	不動産の 売買や賃 貸	その他	準備して いない	無回答
未婚	83.9%+	51.6%	25.8%+	3.2%	3.2%	0.0%-	0.0%	9.7%-	3.2%
配偶者あり	70.5%	55.1%	9.4%	1.1%	5.9%	6.6%	0.2%	14.0%	4.2%
離別・死別	59.8%-	47.7%	6.9%	2.0%	4.3%	6.9%	0.6%	23.1%+	5.5%
全体	67.0%	52.2%	9.0%	1.5%	5.2%	6.5%	0.3%	17.3%	4.7%

(備考1) 男性のnは「未婚」=34、「配偶者あり」=636、「離別・死別」=126、「全体」=796。

女性のnは「未婚」=31、「配偶者あり」=543、「離別・死別」=346、「全体」=920。

(備考2) 全体より5%以上の差がある値に±表記、網掛け。

(資料) 公益財団法人「生命保険文化センター」の「ライフマネジメントに関する高齢者の意識調査」より筆者作成。

(2) 坊美生子(2023)「シングル高齢者の相続と金銭管理の準備状況～相続準備は未婚女性が進行、認知能力低下後の金銭管理準備は未婚男女とも遅れ」(基礎研レポート)

図表 2 性・配偶関係別にみた判断能力低下時の金融資産の取り扱いに関する希望

<男性>

	n	そのまま保持する	適切に運用する	売却して現金資産にする	保持していない	回答したくない	その他	無回答
未婚	34	2.9%-	17.6%	11.8%	47.1%	11.8%	2.9%	5.9%
配偶者あり	636	8.2%	21.9%	12.7%	44.8%	8.5%	0.9%	3.0%
離別・死別	126	9.5%	17.5%	11.1%	46.8%	8.7%	2.4%	4.0%
全体	796	8.2%	21.0%	12.4%	45.2%	8.7%	1.3%	3.3%

<女性>

	n	そのまま保持する	適切に運用する	売却して現金資産にする	保持していない	回答したくない	その他	無回答
未婚	31	6.5%	35.5%+	6.5%	22.6%-	19.4%+	3.2%	6.5%
配偶者あり	543	9.2%	19.3%	11.6%	42.4%	11.0%	1.7%	4.8%
離別・死別	346	10.1%	12.7%	9.8%	46.5%	11.6%	1.7%	7.5%
全体	920	9.5%	17.4%	10.8%	43.3%	11.5%	1.7%	5.9%

(備考) 全体より5%以上の差がある値に±表記、網掛け。

(資料) 同上。

2-2 | 中年の未婚女性との比較

投資に積極的であるのが、シニア以外の未婚女性にも共通するのかどうかをみるため、文化センターが40～59歳を対象に行った中年層調査のデータを用いて、中年男女についても、退職後の生活資金形成のための経済的な準備に関する回答を比較した(図表3)⁽³⁾。これを見ると、中年層では、未婚女性で、老後の生活資金のために準備していることとして「NISA」と回答した割合は16.1%で、女性全体と有意な差はなかった。NISAについては、年代が上がるほど利用割合が増えるという調査もあることから⁽⁴⁾、「NISAに積極的な未婚女性」は、シニアに限った特徴のようである。

図表 3 性・配偶関係別にみた老後の生活資金の備えとして行っていること (中年層)

<男性>

	預貯金	生命保険 (個人年金・終身 保険)	NISA (小型投 資非課税 制度)	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	NISA、 iDeCo以 外の株式・ 債権等の 有価証券	不動産の 売買や賃 貸	その他	準備してい ない	無回答
未婚	60.8%	28.5%-	18.3%	10.8%	16.7%	3.2%	0.5%	33.3%+	0.0%
配偶者あり	67.3%	43.3%+	22.2%	17.1%	18.5%	4.0%	2.2%	18.5%-	0.0%
離別・死別	61.1%	33.3%	5.6%-	8.3%-	8.3%-	8.3%	0.0%	27.8%	0.0%
全体	64.4%	37.0%	19.5%	14.1%	17.1%	4.0%	1.4%	24.7%	0.0%

(3) 中年層調査はインターネット調査。

(4) NISAの認知者のうち、口座を開設して、金融商品を保有している人の割合の比較(一般社団法人投資信託協会「2022年(令和4年)投資信託に関するアンケート調査報告書」)。

<女性>

	預貯金	生命保険 (個人年 金・終身 保険)	NISA (小型投 資非課税 制度)	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	NISA、 iDeCo以 外の株式・ 債権等の 有価証券	不動産の 売買や賃 貸	その他	準備してい ない	無回答
未婚	65.2%	40.2%	16.1%	12.5%	12.5%+	3.6%	0.0%	23.2%	0.0%
配偶者あり	67.5%	41.2%	12.0%	7.6%	5.3%	2.3%	0.9%	26.3%	0.0%
離別・死別	55.1%-	30.6%-	16.3%	10.2%	10.2%	2.0%	2.0%	32.7%+	0.0%
全体	65.8%	40.0%	13.3%	8.9%	7.4%	2.6%	0.8%	26.2%	0.0%

(備考1) 男性のnは「未婚」=186、「配偶者あり」=275、「離別・死別」=36、「全体」=497。

女性のnは「未婚」=112、「配偶者あり」=342、「離別・死別」=49、「全体」=503。

(備考2) 全体より5%以上の差がある値に±表記、網掛け。

(資料) 同上。

3—シニア未婚女性の三つの特徴

3-1 | 老後への不安の大きさ

次に、シニアの未婚女性の投資への積極性について考える上で、関連があると考えられる三つの特徴について紹介したい。一つ目は、既出レポートでも述べたように、老後の生活資金に対する不安の大きさである⁽⁵⁾。

図表4は、「あなたは退職後の生活資金に不安がありますか」への回答を性・配偶関係別に分析した結果である。「未婚女性」は「あまり不安ではない」が22.6%で、女性全体に比べると低い。また、「とても不安」と「どちらかといえば不安」を足した「不安層」の大きさを比較すると、未婚女性は合計64.6%で、すべての性・配偶関係の中で最も高い。この老後の生活資金への不安の大きさが、資産形成に向けた積極的な意識や行動と関連していると考えられる。

図表4 性・配偶関係別にみた退職後の生活資金に関する不安

<男性>

	とても不安	どちらかといえ ば不安	あまり不安では ない	不安ではない	無回答	不安層 (再掲)
未婚	14.7%	41.2%	35.3%	8.8%	0.0%	55.9%
配偶者あり	14.0%	41.0%	33.0%	9.7%	2.2%	55.0%
離別・死別	22.2%+	38.9%	21.4%-	15.9%+	1.6%	61.1%
全体	15.3%	40.7%	31.3%	10.7%	2.0%	56.0%

(5) 坊美生子(2023)「人生100年時代のシングル高齢者の不安と備え～未婚女性はポジティブで備えも進み、未婚男性はネガティブで備え不足」(基礎研レポート)

<女性>

	とても不安	どちらかといえば不安	あまり不安ではない	不安ではない	無回答	不安層(再掲)
未婚	19.4%	45.2%	22.6%	9.7%	3.2%	64.6%+
配偶者あり	14.4%	44.6%	28.9%	7.9%	4.2%	59.0%
離別・死別	19.7%	36.4%	29.8%	10.7%	3.5%	56.1%
全体	16.5%	41.5%	29.0%	9.0%	3.9%	58.0%

(備考1) 同上

(備考2) 同上

(資料) 同上

3-2 | 多様な情報ネットワーク

筆者が最も注目している未婚女性の特徴が、二つ目の情報ネットワークである。

日本証券業協会の調査によると、個人投資家が有価証券に興味・関心を持ったきっかけのうち、「周囲の人に勧められた」が1割あり、身近な人からの「ロコミ」は、投資行動に直接、影響するものの一つだと言える⁽⁶⁾。

ここで、高齢者の友人・知人との交流に関して、内閣府の「第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(2021年)をみると、高齢者のうち、「親しい友人がいる」人と回答した割合は、男性が48.1%に対して、女性が66%と高く、もともと女性は男性よりも、親しい友人がいる割合が高い⁽⁷⁾。また、同調査の「同居の家族以外に頼れる人」という設問でも、「別居の家族・親族」との回答が男性58.7%に対して、女性67%と、女性が男性を大きく上回っており、女性は、兄弟姉妹等の親族とも関係が濃いことが分かる。

次に、女性高齢者のうち、配偶関係別に交流関係の違いをみるために、文化センターの調査を用いて「判断能力が不十分になったときの相談相手」を性・配偶関係別に比較すると、未婚女性は「友人」との回答が22.6%あり、女性全体よりも10ポイント以上高い(図表5)⁽⁸⁾。配偶者や子どもを除く「その他親族」も77.4%に上り、すべての性・配偶関係の中で最も高い。「配偶者」や「子ども」に頼ることがない分、いざという時に頼りにできる友人をたくさん作ったり、兄弟姉妹との関係を深めたりし、日ごろから様々な情報交換をしていると考えられる⁽⁹⁾。

以上の調査結果から、シニアの未婚女性はロコミ網が発達しており、老後の生活資金や生活不安等の会話と合わせて、金融商品に関する情報も得ていると考えられるのではないだろうか。モノ・サービス消費の中でも、リスクのある金融商品の場合は、関心があっても、なかなか踏み切れない人も多いと思うが、身近な人の経験談を聞き、「税制優遇を受けられた」などと成果を耳にすると、心理的ハードルが下がり、挑戦しやすいのではないだろうか。

(6) 日本証券業協会(2023)「個人投資家の証券投資に関する意識調査報告書」。

(7) 同調査で「同性の友人がいる」、「異性の友人がいる」、「同性・異性の両方の友人がいる」と回答した割合を合計した。

(8) 坊美生子(2023)「シングル高齢者の相続と金銭管理の準備状況 ～相続準備は未婚女性が進行、認知能力低下後の金銭管理準備は未婚男女とも遅れ」(基礎研レポート)

(9) シングルに関する著書が多いエッセイストの岸本葉子さんは、読売新聞のインタビューで、自身の情報収集の生活習慣にも触れながら、「シングル女性にはロコミ網もあるのでは」と指摘している(2023年10月8日読売新聞朝刊)。

図表 5 性・配偶関係別にみた判断能力低下時の相談相手（複数回答）

<男性>

	n	配偶者	子ども	その他親族	近隣住民	町内会	友人	社会福祉協議会	地域包括支援センター	NPO法人	弁護士	司法書士	社会福祉士	その他	無回答
未婚	34	0.0%-	2.9%-	67.6%+	2.9%	2.9%	29.4%+	5.9%	23.5%+	0.0%	5.9%	5.9%	2.9%	0.0%	2.9%
配偶者あり	636	87.1%+	84.0%	14.0%	2.7%	0.9%	6.8%	2.7%	5.8%	0.5%	1.9%	2.0%	1.3%	0.0%	0.9%
離別・死別	126	0.0%-	76.2%	27.0%+	2.4%	3.2%	7.9%	6.3%	4.8%	0.8%	0.8%	1.6%	0.0%	0.8%	7.1%+
全体	796	69.6%	79.3%	18.3%	2.6%	1.4%	7.9%	3.4%	6.4%	0.5%	1.9%	2.1%	1.1%	0.1%	2.0%

<女性>

	n	配偶者	子ども	その他親族	近隣住民	町内会	友人	社会福祉協議会	地域包括支援センター	NPO法人	弁護士	司法書士	社会福祉士	その他	無回答
未婚	31	0.0%-	3.2%-	77.4%+	3.2%	0.0%	22.6%+	3.2%	6.5%	0.0%	6.5%+	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%+
配偶者あり	543	78.6%+	91.2%	17.9%	2.6%	0.4%	12.9%	4.6%	8.5%	0.4%	0.9%	0.9%	0.7%	0.4%	0.7%
離別・死別	346	0.0%-	87.9%	22.8%	3.5%	1.4%	10.7%	4.6%	8.7%	0.3%	1.2%	2.3%	0.9%	1.7%	1.2%
全体	920	46.4%	87.0%	21.7%	2.9%	0.8%	12.4%	4.6%	8.5%	0.3%	1.2%	1.4%	0.8%	0.9%	1.1%

（備考）全体より5%以上の差がある値に±表記、網掛け。

（資料）同上

3-3 | 高水準の資産を保有

先行研究によると、投資行動は世帯の資産状況とも関連がある。日本証券業協会の調査によると、20歳以上の個人投資家の世帯保有資産をみると、3,000万円以上が全体のおよそ半数を占めている。つまり、高水準の資産を保有している方が、投資をしやすいと言える⁽¹⁰⁾。特に「60～69歳」と「70歳以上」の高齢者層に限ると3,000万円以上の方が6割を超える。

ここで、文化センターの調査を用いて、高齢者の世帯保有資産の状況を性・配偶関係別に分析すると、図表6のようにになっている。文化センターの調査では、選択肢が「100万円未満」、「100万円以上1,000万円未満」、「1,000万円以上2,000万円未満」、「2,000万円以上5,000万円未満」、「5,000万円以上1億円未満」、「1億円以上」の6段階であり、日本証券業界の調査の区分とは異なるが、高水準として例えば「2,000万円以上」の世帯を合計すると、未婚女性は25.8%であり、女性全体より高い。また、「5,000万円以上」で合計すると、未婚女性は16.1%で、すべての性・配偶関係の中で最も高くなる。逆に、最も低い区分である「100万円未満」は、未婚女性は9.7%で、すべての性・配偶関係の中で最も低い。つまり、未婚女性は世帯保有資産が高水準の人が多く、低水準の人が少ない。このような安定した資産状況が、投資行動の積極姿勢と関連している可能性がある。

ちなみに、このように高水準の金融資産を保有する未婚女性であるが、それだけ現役時代の年収水準が高かったのかと言えば、そうとは言えない。筆者の既出レポートでも紹介したが、未婚女性は、現役時代または現在の雇用形態が「正社員」であった割合は、女性の中では最多の4割であるが、男性と比べると、いずれの配偶関係の男性よりも低い⁽¹¹⁾。未婚女性では「パート・アルバイト」が約2割を占めるなど、不安定な雇用形態であった人も多い。

また、現役時代の給料の水準と一定、リンクしている公的年金受給額（本人または夫婦の合計）の

(10) 日本証券業協会（2023）「個人投資家の証券投資に関する意識調査報告書」。

(11) 坊美生子（2023）「[シングル高齢者の増加とその経済状況～未婚男性と離別女性が最も厳しい](#)」（基礎研レポート）。

金額階級別割合を、性・配偶関係別に比べると、図表7のようになる⁽¹²⁾。例えば「配偶者あり男性」では「年間250万円以上」の割合が約4割に上るのに比べて、未婚女性を見ると、2割弱に過ぎない。設問が「本人または夫婦の（合計）受給額」を聞いているため、「配偶者あり」のうち、夫が厚生年金加入者で妻が第3号被保険者だった場合などは、給料の水準に対して年金受給額が高めに出る傾向はあるが、その点を考慮しても、「配偶者あり男性」と「未婚女性」の開きは大きい。従って、未婚女性の現役時代の年収水準が、男性に比べて高かったとは言えない。

むしろ、現在の65歳以上の女性は、日本に男女雇用機会均等法が整備される前から働き始めた世代である。まだ男女差別が強く、企業では多くの女性が補助的役割に従事し、管理職に就く女性は極めて稀で、男女賃金格差が現在よりも大きい——という昭和の時代から、平成・令和にかけて働き続けてきた「均等法前世代」である。男性に比べて低水準の待遇でも、環境に適応して働き続け、その間に、将来に向けてコツコツと資産形成してきた層だと言えるのではないだろうか。

図表6 性・配偶関係別にみた高齢者世帯の資産状況

<男性>

	n	100万円未満	100万円以上1,000万円未満	1000万円以上2,000万円未満	2,000万円以上5,000万円未満	5,000万円以上1億円未満	1億円以上	無回答	2000万円以上(再掲)	5000万円以上(再掲)
未婚	33	29.4%+	14.7%-	20.6%+	2.9%-	8.8%	0.0%	23.5%	11.7%-	8.8%
配偶者あり	593	14.8%	27.7%	14.6%	15.6%	6.0%	1.9%	19.5%	23.5%	7.9%
離別・死別	126	26.2%+	27.8%	9.5%	8.7%-	4.0%	0.0%	23.8%	12.7%-	4.0%
全体	752	17.2%	27.1%	14.1%	13.9%	5.8%	1.5%	20.4%	21.2%	7.3%

<女性>

	n	100万円未満	100万円以上1,000万円未満	1000万円以上2,000万円未満	2,000万円以上5,000万円未満	5,000万円以上1億円未満	1億円以上	無回答	2000万円以上(再掲)	5000万円以上(再掲)
未婚	30	9.7%	29.0%	6.5%	9.7%	12.9%+	3.2%	29.0%	25.8%+	16.1%+
配偶者あり	502	12.5%	21.5%	12.3%	18.0%	7.6%	0.9%	27.1%	26.5%+	8.5%
離別・死別	345	14.2%	28.3%	9.2%	6.6%-	2.9%	0.6%	38.2%+	10.1%-	3.5%
全体	877	13.0%	24.3%	11.0%	13.5%	6.0%	0.9%	31.3%	20.4%	6.9%

(備考) 同上

(資料) 同上

図表7 性・配偶関係別にみた本人または夫婦の公的年金受給額（年間）

<男性>

	n	0円	1~49万円	50~99万円	100~149万円	150~199万円	200~249万円	250~299万円	300~349万円	350~399万円	400~449万円	450~499万円	500万円以上	無回答	250万円以上(再掲)
未婚	34	5.9%	0.0%	8.8%	11.8%	17.6%+	17.6%	0.0%-	0.0%-	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	35.3%+	2.9%-
配偶者あり	636	1.9%	2.0%	5.3%	7.4%	7.7%	14.6%	10.8%	14.2%	6.8%	5.3%	1.4%	3.0%	19.5%	41.5%+
離別・死別	126	4.0%	4.0%	7.9%	15.1%+	15.1%+	16.7%	7.1%	7.1%-	0.0%-	0.8%	0.0%	2.4%	19.8%	17.4%-
全体	796	2.4%	2.3%	5.9%	8.8%	9.3%	15.1%	9.8%	12.4%	5.5%	4.4%	1.1%	2.8%	20.2%	36.0%

(12) ただし、この設問の回答には国民年金も含まれる。

<女性>

	n	0円	1~49万円	50~99万円	100~149万円	150~199万円	200~249万円	250~299万円	300~349万円	350~399万円	400~449万円	450~499万円	500万円以上	無回答	250万円以上(再掲)
未婚	31	3.2%	6.5%	19.4%+	19.4%+	6.5%	6.5%	6.5%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	22.6%	16.2%-
配偶者あり	543	0.7%	1.8%	5.7%	6.3%-	5.5%	10.9%	8.7%	16.4%+	7.6%	6.1%	1.3%	4.4%	24.7%	44.5%+
離別・死別	346	1.4%	3.8%	17.3%+	18.8%+	15.0%+	11.3%	2.3%	1.7%-	0.3%	0.6%	0.0%	0.9%	26.6%	5.8%-
全体	920	1.1%	2.7%	10.5%	11.4%	9.1%	10.9%	6.2%	10.5%	4.7%	3.8%	0.8%	2.9%	25.3%	28.9%

(備考) 同上

(資料) 同上

4—終わりに

本稿では、生命保険文化センターの調査結果を用いた筆者の分析より、シニアの未婚女性は4人に1人がNISAを利用し、最も投資に積極的な消費主体である点を改めて指摘した。そして、その積極性と関連があるとみられるシニアの未婚女性の特徴として、(i) 老後への不安が相対的に強い、(ii) 発達した口コミ網で情報交換を行っている、(iii) 高水準の資産を保有する人が多い、という3点を説明してきた。

本稿で用いた調査では、NISAを利用した金融商品の種類や時価総額等については聞いていないため、未婚女性の投資の内容や目的までは、把握することはできない。しかし、本稿までに分析した結果から、消費者として未婚女性を描くと、厳しい環境にも自身を適応させ、アンテナを張り巡らして熱心に情報収集し、計画的に資産形成し、自身に合った金融商品を選択するという、賢明でアクティブな姿が浮かび上がる。そのような未婚女性の4人に1人が、長寿時代に適応するために、着実な資産形成の手段の一つとして、非課税メリットのあるNISAを取り入れている、ということだろう。

シニアの未婚女性が、このような賢明さ、アクティブさを発揮する領域は、金融の領域に限らないだろう。まさに、未婚女性は、高齢者市場において注目すべき消費主体だと言える。日本の個人消費額の半分近くを「60歳以上」が占めることから、高齢者市場が注目されるようになって久しいが、「シングルシニア」の消費に対する関心は、これまで薄かったように思う。未婚化や長寿化の進行など、社会の変化に伴って「シニア」は多様化しており、配偶関係に着目すれば、高齢者市場でも新しい発見があるのではないだろうか。また、同じ「未婚」であっても、男性と女性では全く特徴が異なることから、ジェンダーの視点も重要であることを、最後に付け加えたい。